

ある奥さんの話

教育問答（二）

主 幹 倉 橋 惣 三

家庭の教育

客 今日では家庭教育のことに就て、お伺ひに出ました。

主 なにか六かしいことでもありますか。

客 六かしいどころか、どうしたらよろしいのか、分らない

くなつて仕舞ふので御座います。

主 どうするとは、

客 家庭教育をで御座います。子どもの教育は、家庭が一

番大事だといふことは承知いたして居りますが、それが

なか／＼うまく参りませんのです。

主 うまく。

客 はい。何しろ私どもの家庭では、學校のように時間が

きちん／＼出来ませんで。

主 時間が。

客 せめて、毎日一二時間づゝでも、子どものことにかゝ

りつきりに、なつてやり度いと思ひましても、

主 さようですか。まあ、今なすつてらつしやることをお

話し下さい。

客 お聞きを願ふ程のことも致して居りませんが。なんで

御座います。ふた月程前から、子どもの時間割といふも

のをこしらへまして。

主 なるほど。

客 學校から歸つて参りますと、其の日の復習と明日の豫

習をいたしてやります。

主 結構ですね。

客 しかし、それだけではいけないと存じまして、先達も家庭教育の中心は、精神こころの教育にあるといふことを或る先生のお話で承りましたし。

主 なるほど。

客 隔日に一度づつ、訓話をいたしてやることにしましたのです。

主 ははあ。訓話とおつしやいますと。

客 子どもの缺點を識めましたり、修身のいゝお話を聞かせましたり。

主 お子さんは、よくお聞きですか。

客 こにかく、其時だけは私も厳しくいたして居りますのです。

主 それで。

客 聞いては居りますが、ほんごうによく分つて呉れますか、それが心配なので御座います。毎度、前に話してやりましたことを質問して見ますと、大體、あまり、とんちんかんの答へもいたしませんけれど。

主 たゞへば。

ある奥さんとの話（教育問答―二）

客 さようですね。たゞへば、親切とはさういふことではないつた風に。

主 何ぞお答へです。

客 人に親切にすることですといふ風に答へます。

主 え。

客 目下めしたのものなごにも、親切にしてやることですから答へます。

主 なるほど。

客 なにね、そう教へてあります通り答へるんで御座いますかね。

主 でしょうね。

客 答へは、それでよろしいんですが、そう覺えて居ながら、女中なごに對してちつとも實行いたしませんので困ります。

主 ははあ。そうでしょうね。

客 ですから困るんで御座います。

主 復習や豫習の方は。

客 それも、實際は、なか／＼思ふ通りに参りませんで困

ります。

主 何故ですか。

客 私さもでは、随分いろんな用事のあります方で、それに、客が多いものですから、私もなか／＼時間割通りに参りませんで。

主 さようでしょうとも。

客 そうすると、其の日は一日、家庭教育が豫定通りいきませんのです。

主 一寸お待ち下さい。（もしく）。ごなた。そう。そう。え。あゝそうですか。よろしい。そうさせませう。承知しました。では、また明日いづれ。さようなら）――いや失禮しました。

客 何か急の御用事でも。

主 いゝえなに。もゞ宅に居ました男が、今度、アメリカへ赴任して行くことになりましたね。子さも達も、其の男には小さい時から親しくしましたし、子さも心に、今度の成功を非常に喜んで居るもんですから、船まで見送らしてやろうといふ相談なんです。十二時の解纜ですか

ら、學校を休ませなければなりません。

客 それは結構で御座いますね。しかし、なんですか、そういう時には學校をお休みにおさせなさいますんですか。

主 いゝでしょう。折角く子さも達の心もちが、その男の門出を大に祝福してるといふ譯なんですから、はゝゝ。

客 ……………

主 意義のある場合には、臨時に學校を休ませたつてよろしいでせう。斯ういふ場合でないさ、斯ういふ心の經驗をさせることは出来ませんからね。

客 ……………

主 それに妹の方の奴が、まだ大きい汽船の内部を見たことがないので、見せてやろうといふのです。それに、お船なんかに乗つて行つて、あぶなくないのと、其の男のために心配して居ますしね。

客 お可愛いこと。お船を御覧になるのもおためになりますね。此の間も、宅の子さもが、學校の先生に横須賀へ連れて行つて頂いて、いろんなことを覚えて参りま

した。

主 船の知識だけなら、いつでも見せてやれますがね。現に自分の親しい人が乗つてゆく船といふミ、また別の感じが伴ひますからね。知識それ自身でない。

客 お嬢さんも、あの大きい春洋丸を御覧になつたら、御安心なさいませう。

主 はゝゝゝ。お船なんかに乗つて行つて、沈没したら大變だつて、えらく心配して居ますんで。此の間も、其男が暇をひに來た時皆で大笑ひなんです。その男も、やさしい男でしてね。こんなに嬢ちやんが心配して居て下さつては濟まない。どうか、船をお目に掛けて安心して頂き度いなんて言つてましてね。

客 それが、よろしう御座いますね。

主 ところで、奥さんのお話は。

客 長くお邪魔して相済みません。

主 いゝえ、ちつとも。

客 なんて御座います。そんな譯で、どうも、時間をきめた教育が、きちんと出來ませんのです。それに、善い行

ある奥さんこの話（教育問答―二）

ひの話が分つても、實行になつて呉れませんのです。

主 失禮ですが、奥さんのは、それは家庭教育じやありませんよ。

客 へつ。

主 失禮ですがね。奥さんは、家庭がする教育ミ、家庭の中でする教育と混じていらつしやいませんか。

客 もう少し詳しくお話願ひます。

主 家庭教育といふことは、私の考へでは、家庭生活が、子どもに與へる教育をいふので、理屈っぽく申しますミ、家庭生活そのものが持つて居る自然の教育効果を實現するといふことではありますまいか。つまり、此頃の言葉でいへば、生活即教育とでもいつていゝものではないのでせうか。奥さんのは、奥さん許りじやありませんがね。家庭の中で、學校の教場式な教育を繰りかへしてゐらつしやるのではありますまいか。

客 はあ。

主 それも、決して悪いことではありませんがね。それなら、何も特に、學校の教育で出來ないことが、家庭教育

でこそ出来るといふ様なこゝが無くなつて仕舞ふでしやう。

客 学校教育で出来ないことゝ、おつしやいます。

主 學校は教育の場所ですがね。餘りに教育だけの場所なんです。だから、學校が悪いとか、いらなとかいふのではありませんよ。學校いふところは、そういうところとして必要なんです。しかし、學校には、現實の生活がありませんね。従つて生活の眞の實感も多くありませんね。此の點は今日の學校教育者も一番深刻に考へて居る問題なんですがね。兎に角、それを、十分に、學校に求めることは困難でせう。ところが、それが、家庭にはあるんです。現實の生活が。家庭いふのは、家庭でも、また家族でもなく、生きた生活なんですからね。従つて、家庭でこそ、すべてが、生活の實感で動いて居る筈なんです。子どもは子ども相當に。

客 子どもにも、生活の實感を與へてよろしいのでせうか。
主 勿論、生活の種類にもよりますがね。しかし、實感なしの人間、實感なしの生活では、生活の教育も、人間の

教育も出来ますまいね。

客 それはそれで御座いませうね。

主 こないだも、なんでしたよ。母が病氣しました時、私は二三日長女に學校を休んで、看護をさせました。學校を休ませるお話ばかりしますがね。それが自慢ではありませんがね。母も家内も、これには反對で、看護婦も來て貰つてゐるのに申したんですがね、私は、長女が學校で看護のこゝを教つてゐる時でしたから、其の實際を看護婦といつしよにさせたんです。

客 はあ。

主 之れは、何も、そうしなければならぬといふ譯ではありませんが。そりや學校でも、看護法の講義ばかりでなく、實習をさせるそうですがね。人形の顔に吸入をさせたつてね。病人を心配するといふこゝが伴はない看病は、無實感ですからね。

客 面白いことをおつしやいます。

主 その時にもです。吸入を何ばいとかするところを、母が、もう疲れたから二はいにして置かうと言つたんだそ

うです。そうするに、學校で教はつたのと違ふから、もつとしなければいけないと娘が言つたんですつて。看護婦も、もうおよしになつていゝでせうと止めたそうですがね。尤も母も大して疲れる病氣でもなかつたものですから、笑ひながら學理通りに従つたそうですかね。

客 ほゝゝゝ。

主 人形は、いくら風をひいても疲れませんかね。疲れるといふことに思ひやりのない看病は、たまりませんね。はゝゝゝ。

客 さつき、お茶をおもち下さつたお嬢さまですか。

主 あれです。

客 お宅では、お子さま方に、お家の御用もおさせなさいますので御座いますか。

主 必ずとも限りませんが、まあ、させる方ですね。

客 宅では、主人が、子どもに、家の用なんか手傳はせてはいけない。子ごもは、勉強だけをさせて置かなければいけないと申す主義で。

主 それも結構でせう。

客 しかし、なんだかお話を伺つて居りますと、家の用も手傳はせた方が、よろしい様に存ぜられますが。

主 私の家では、そうして居ります。尤も、強ゐてそうさせる譯でもありませんが、自分の目の前の用で、自分達に出来ることは、自然する様な習慣になつて居ります。

客 矢張り生活即教育とおつしやいましたお考へからですか。

主 なあに、そんな大した理論から出發したんじやありません。なんだか、そうなつて居るんです。生活即生活といふ位のところですかね。はゝゝゝ。

客 これはさうも、大層長座いたしました。また、いろいろお話を伺はせて頂き度いう御座ます。

主 さようですか。今日は、ほんさうにお構ひいたしませんで、失禮しました。母も家内も女中達も、さつき申上げた男の方へ、手傳いに行つて留守だもんですから。

客 お子さま方も。

主 はあ。

客 お上のお嬢さまも、おあとから、いらつしやいました

んですか。

主 いゝえ、あれは、お客さまだからつて、参らずに居ります。

客 それは、ごうも、お妨けしました。

主 いゝえ、なに。常子、お客さまがお歸りですよ。

客 どうぞ、もう、そのまい。

主 さあ、まあ、ごうぞ。また是非、みんなの居ります時御ゆつくり。お子さんもお連れになつて。

客 あり難う御座います。是非お邪魔させて頂きます。お嬢さまは、お丈夫そうであつしやいますこと。

主 はゝゝゝ、お蔭で、子ども達皆丈夫です。お宅では、客 どうも、思ひ切つて丈夫の方参りませんで。

主 それは……なあに、子どもの身體はいろいろ變りますよ。しかし奥さん、あんまり、教育はなさらない方がよろしう御座いますよ。はゝゝゝ。

客 ほゝゝゝ、これから、そういふことにいたしました。

……では、御免蒙ります。

主 さようなら。

男子にしろ、女子にしろ、なして價值ある仕事をする人のみが、眞に生活し、呼吸し、睡眠する意義をもつてゐる人である。

その人の心は常に仕事の中に生き、願ふところは、仕事をよく爲し、且つよく爲した事に依つて報賞を感じる望みである。

かうした男子、かうした女子は、その住む全土を神の恵の下に置く。

—— ラスキン ——